

## 天満宮末社春日社(てんまんぐうまっしやくがしゃ)

(市指定重要文化財)

末社春日社は、本殿の後方に南面して建つもので、一間社流造の小規模な社殿です。社殿は身舎、庇の軒桁や垂木に見られる反り増しをはじめ、要所に用いられている彫刻の装飾に、室町時代後期の特徴をよく残しています。一部に菊と唐草・流れに紅葉などの文様が描かれており、各部には彩色が施されていた痕跡が見られますが、ほとんどは不明です。

建築年代は天正年間(1573～1591)から慶長年間(1596～1614)と推定され、現存する桐生市内の建造物としては、最古のものであるとともに、当地方における古建築の遺例として貴重です。

- \* 一間社…小規模な神社本殿形式の一つ。正面の柱間(はしらま)が一間のもの。
- \* 流造…屋根が反り、屋根が前に曲線形に長く伸びて庇となったもの。流造の構造は、切妻造・平入であるが、側面から見た屋根形状は対称形ではなく、正面側の屋根を長く伸ばす。屋根には大社造同様の優美な曲線が与えられる。
- \* 身舎(母屋、身屋)…寝殿造りで、主要な柱に囲まれた家屋の中心部分。ひさはこの部分から四方に差し出される。



撫で牛

## 天満宮の撫牛(てんまんぐうのなでうし)

太宰府天満宮の「御神牛」をはじめ、全国の多くの天満宮には牛の像が置かれています。その理由は、

- ① 菅原道真公の生まれた年が丑の年だったから。
  - ② 菅原道真公が亡くなったのが、丑の月の丑の日だったから。
  - ③ 菅原道真公が、牛に乗って太宰府に下ったから。
  - ④ 菅原道真公の墓所(太宰府天満宮)の位置を、牛が示したから。
  - ⑤ 牛が刺客から菅原道真公を守ったから。
- など、諸説あるそうです。

この牛の像は「撫牛」とも呼ばれ、自分の体の悪いところと同じ場所を撫でると、病氣や怪我を癒やしてくれると信じられています。

牛の頭を撫でると頭がよくなると言われるため、牛の頭を撫でる学生さんも多いようです。